

実践記録(小3・理科)

1 ねらい

教師が、タブレットPCに保存した「影ふみ遊び」の映像を学習のはじめに児童に見せることで、前時までの活動を想起し、本時の課題をつかむことができる。

児童が、書画カメラを使って「太陽の方位調べ板」を拡大し、「太陽マグネット」の動きを見せながら予想した太陽の動きを発表することで、分かりやすく友達に伝え、共通理解を図ることができる。

2 活用したICTと場面

タブレットPCを使って導入の場面で学習活動に対して興味付けを行い、書画カメラを使って展開の場面で予想した太陽の動きを発表する。

3 実践の様子

(1) 本時の課題をつかむ。

タブレットPCに保存した「影ふみ遊び」の映像を見て、影のでき方や太陽の方位について学習したことを確認した。そして、「太陽は1日の間で、どのように動くのだろうか。」という問いについて考えていくことにした。

(2) 太陽の動きを予想する。

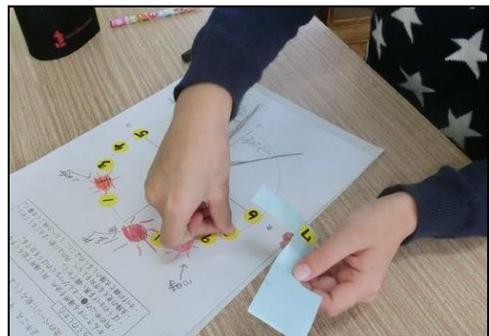
はじめに、児童は、前時に調べた午前10時、正午、午後2時ごろの太陽の方位を赤いシールで表した「太陽の方位調べ板」を参考に、1日の太陽の動きを予想した。そして、時間の書かれた黄色シールを順番に貼った。【資料1】

次に、どうして太陽がそのように動くと思ったのか、その根拠を考え、学習プリントにまとめた。まとめ終えたところで、近くの友達と意見交換した。

さらに、書画カメラを使って「太陽の方位調べ板」を拡大し、「太陽マグネット」の動きを見せながら、予想した太陽の動きを全体で発表した。【資料2】

(3) 学習を振り返る。

友達の予想と自分の予想とを比べて、似ている点や違っている点を確認し、必要に応じて予想を書き直した。次時では、午前9時、午前11時、午後1時、午後3時の太陽の方位を観察板に記録して、予想した太陽の動きを確かめることを知った。



資料1 太陽の動きを予想し、時間の書かれた黄色シールを貼る児童



資料2 書画カメラを使い、予想した太陽の動きを発表する児童

4 成果と課題

- 学習活動を映像で振り返ることで、既習内容を踏まえた上で、本時の学習に取り組むことができた。
- 発表の場面で書画カメラを使うことで、考えた結果を見せながら分かりやすく発表することができた。
- 予想した太陽の動きの根拠を考える際、悩んでしまう児童が多かった。個よりもグループで考えさせると良かったと感じた。さらに、グループで考える際、「太陽の方位調べ板」にシールを貼るのではなく、何度も修正ができるタブレットPCの画面上で考えさせるとよいと考える。